

1. 構造名：

両面化粧有孔有機質系繊維混入セメント板表張／木製下地軒裏

2. 申請仕様の寸法：

申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項目	申請仕様
軒の出	1000mm以下
軒の幅	構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法
軒の形状	勾配又は水平

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項目	申請仕様								
被覆材	<p>材料：両面化粧有孔有機質系繊維混入セメント板</p> <p>組成：</p> <table border="0"> <tr> <td>セメント質原料</td> <td>70(±7)質量%</td> </tr> <tr> <td>無機質混和材</td> <td>22(±7)質量%</td> </tr> <tr> <td>有機質繊維</td> <td>6(±2)質量%</td> </tr> <tr> <td>有機質混和材</td> <td>2(±1)質量%</td> </tr> </table> <p>但し、</p> <p>セメント質原料：セメント、けい酸質原料等 無機質混和材：パーライト、マイカ等 有機質繊維：パルプ、合成繊維等 有機質混和材：パルプ粉等</p> <p>塗料(表裏面)</p> <p>材料：1)～6)の一</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アクリルウレタン樹脂系塗料 2) アクリル樹脂系塗料 3) アクリルシリコーン樹脂系塗料 4) ふっ素樹脂系塗料 5) エポキシ樹脂系塗料 6) ポリシロキサン樹脂系塗料 <p>塗布量：表裏面合計350g/m²以下(有機固形分量)</p> <p>密度：0.9(±0.1)g/cm³以上</p> <p>形状：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 表面形状 <ul style="list-style-type: none"> 厚さ：12～25(±1)mm 幅：455mm以上 2) 断面形状(図7参照) <ul style="list-style-type: none"> 最低板厚(中実部)：10mm以上 容積欠損率(模様深さ)：8.8%以下 (但し、板厚12mmを超える場合は裏面から12mmの位置での欠損率とする) 3) 表面の形状：①～④の一 <ol style="list-style-type: none"> ① 平滑 ② 平滑・溝加工 ③ エンボス ④ エンボス・溝加工 4) 有孔の仕様(図6参照) <ul style="list-style-type: none"> 孔の直径：6mm以下 孔の間隔：縦及び横25mm以上 孔の数： <ul style="list-style-type: none"> 縦；10個以下、横；15個以下 孔の位置： <ul style="list-style-type: none"> 縦；端部から100mm以上離れた位置 横；端部から52.5mm以上離れた位置 	セメント質原料	70(±7)質量%	無機質混和材	22(±7)質量%	有機質繊維	6(±2)質量%	有機質混和材	2(±1)質量%
セメント質原料	70(±7)質量%								
無機質混和材	22(±7)質量%								
有機質繊維	6(±2)質量%								
有機質混和材	2(±1)質量%								
野縁	<p>材料：日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材</p> <p>断面寸法：30×30mm以上</p> <p>取付間隔：500mm以下</p>								

つづく

つづき

吊り木	材料：①又は② ①なし ②日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材 断面寸法：30×30mm以上 取付間隔：500mm以下
-----	---

4. 申請仕様の副構成材料：
 申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

項目	申請仕様
目地部材	材料：①、②又は③(図7参照) ①突付け目地 ②金属ジョイナー ジョイナーの材質：1)～7)の一 1) 溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) 2) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) 3) 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) 4) ポリ塩化ビニル被覆金属板 (JIS K 6744、金属板のアルミニウム又はアルミニウム合金板は除く) 5) 熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304) 6) 冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305) 7) 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0064、0065、0069及び0070) 厚さ：0.25mm以上 形状：H形又はT形 塗料(あり又はなし)：1)～7)の一 1) アクリルウレタン樹脂系塗料 2) アクリル樹脂系塗料 3) アクリルシリコーン樹脂系塗料 4) ふっ素樹脂系塗料 5) エポキシ樹脂系塗料 6) ポリシロキサン樹脂系塗料 7) ポリエステル樹脂系 塗布量：300g/m ² 以下(有機固形分量) ③本実・合いじゃくり目地 端部形状(外装材相互の重なりと隙間、図7参照) 重なり：6mm以上、隙間：3mm以下 ・目地部防水材 材料：1)又は2) 1)なし 2)合成ゴム 使用量：5g/m以下
受材	材料：日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材 断面寸法：30×40mm以上 取付間隔：455mm以下

つづく

つづき

留付材	被覆材固定用： 材料：①、②又は③ ①リングくぎ ②スクリューくぎ 材質：1)又は2) 1)ステンレス鋼線(JIS G 4309) 2)鉄線(JIS G 3532) 寸法：胴部径φ2.3×長さ38mm以上 ③タッピンねじ 材質：1)又は2) 1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2) 2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315) 寸法：呼び径φ2.0×25mm以上 留付間隔：227mm以下
	野縁固定用(たるきへの固定)： 材料：①、②又は③ ①鉄丸くぎ(JIS A 5508) 寸法：N75以上 ②くぎ 材質：1)又は2) 1)ステンレス鋼線(JIS G 4309) 2)鉄線(JIS G 3532) 寸法：胴部径φ2.75×長さ75mm以上 ③タッピンねじ 材質：1)又は2) 1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2) 2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315) 寸法：呼び径φ2.5×40mm以上 留付間隔：500mm以下
	野縁固定用(鼻隠し下地への固定)： 材料：①、②又は③ ①鉄丸くぎ(JIS A 5508) 寸法：N50以上 ②くぎ 材質：1)又は2) 1)ステンレス鋼線(JIS G 4309) 2)鉄線(JIS G 3532) 寸法：胴部径φ2.75×長さ50mm以上 ③タッピンねじ 材質：1)又は2) 1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2) 2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315) 寸法：呼び径φ2.5×40mm以上 留付間隔：500mm以下

つづく

つづき

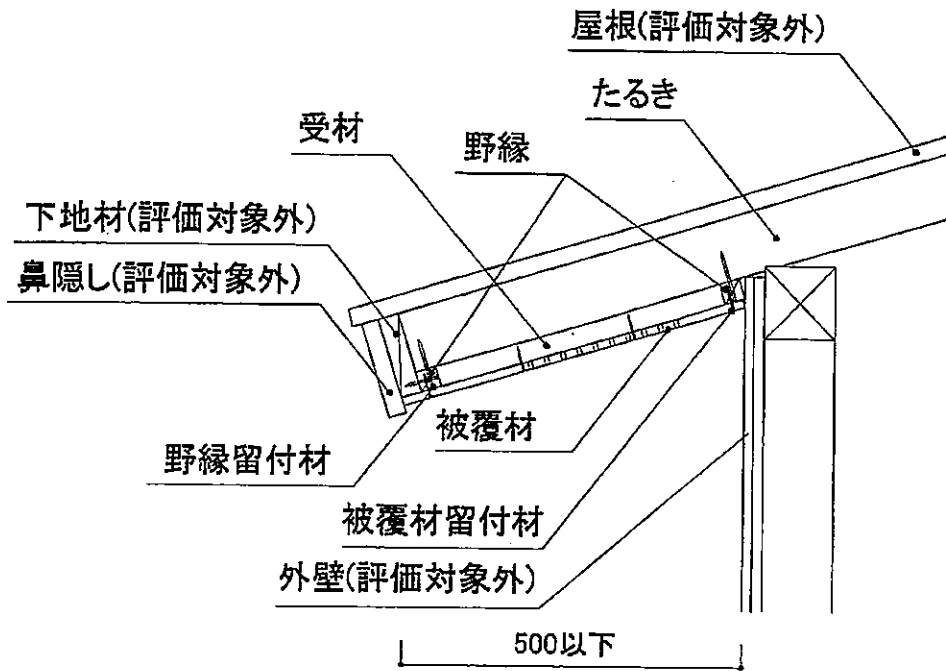
留付材	吊り木固定用(吊り木を用いる場合) : 材料：①、②又は③ ①リングくぎ ②スクリークぎ 材質：1)又は2) 1)ステンレス鋼線(JIS G 4309) 2)鉄線(JIS G 3532) 寸法：胴部径φ2.3×長さ50mm以上 ③タッピンねじ 材質：1)又は2) 1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2) 2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315) 寸法：呼び径φ2.0×45mm以上 留付間隔：227mm以下
-----	---

5. 申請仕様の構造説明図：

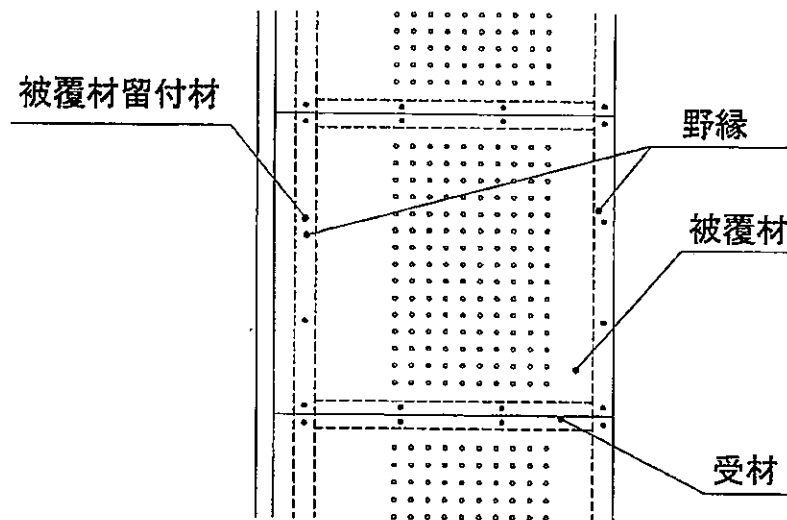
申請仕様の構造説明図を図1～図7に示す。

被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合

単位 mm



軒部詳細図



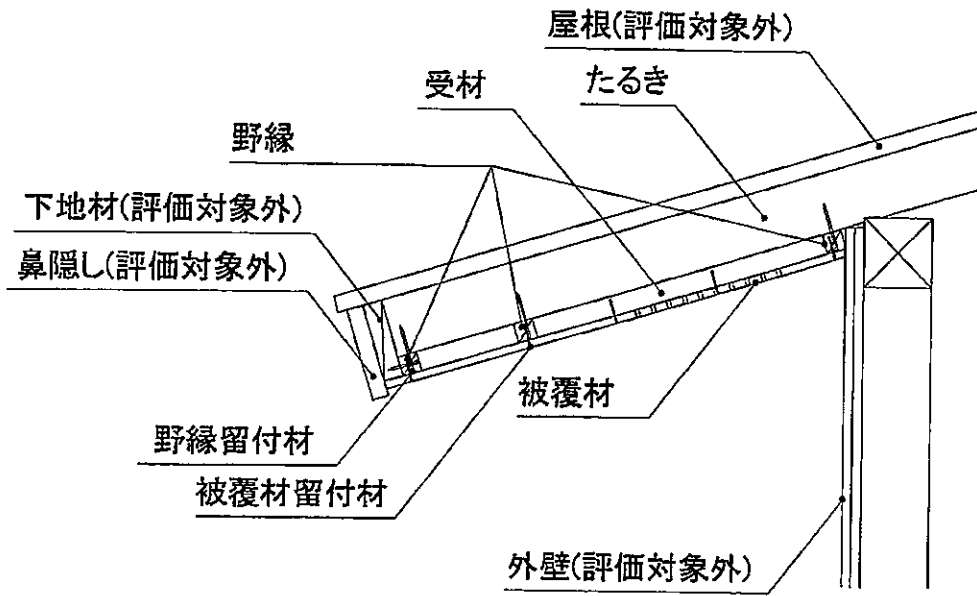
被覆材平面図

図1 構造説明図

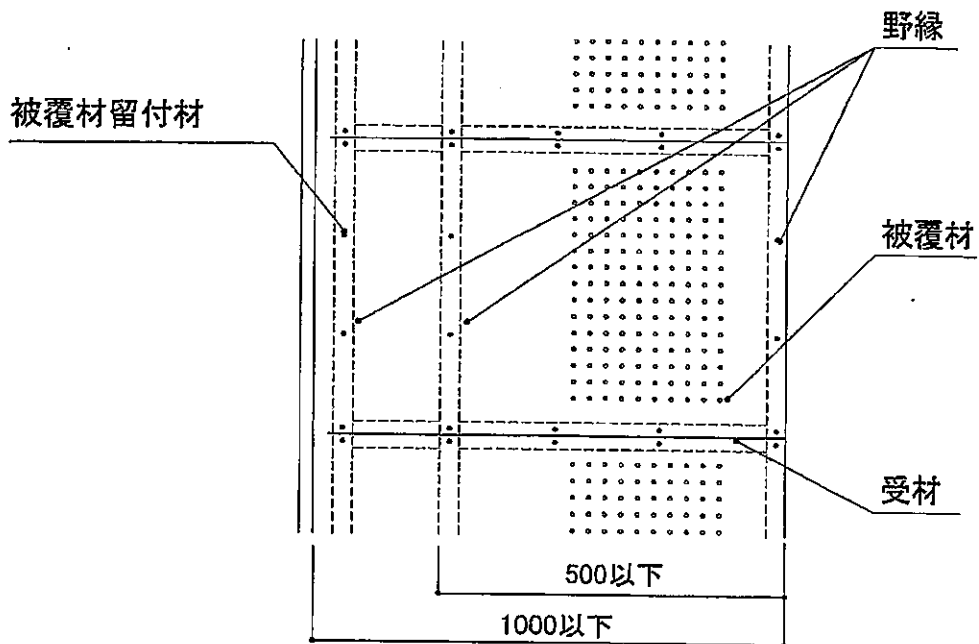
被覆材勾配

単位 mm

軒の出(被覆材長さ)が500~1000mm以下の場合



軒部詳細図

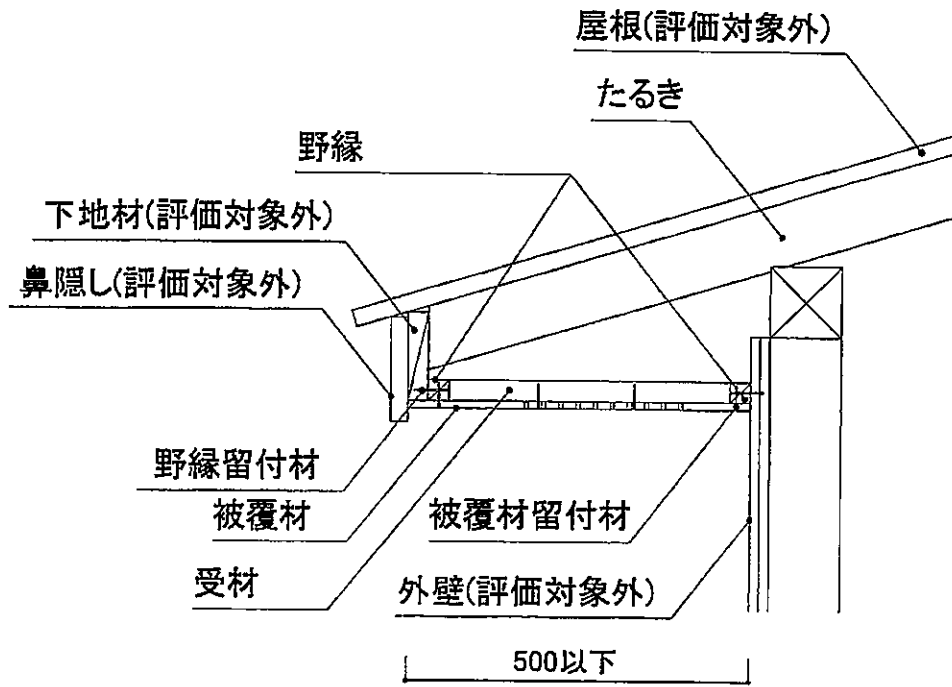


被覆材平面図

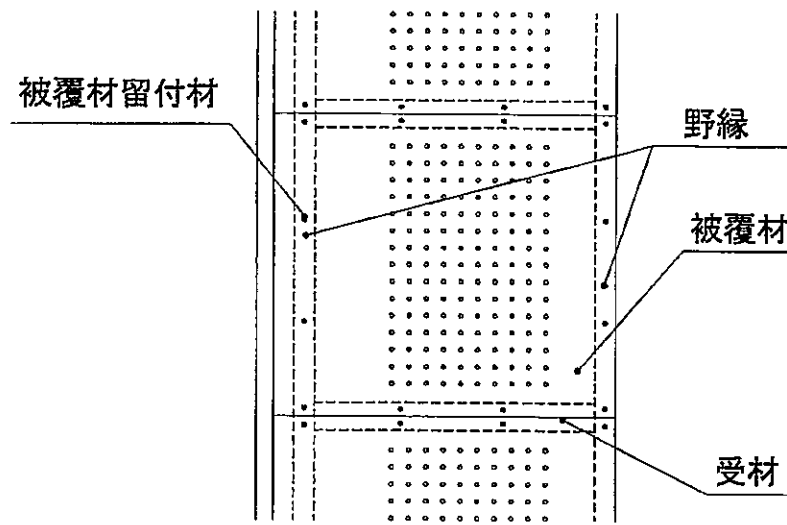
図2 構造説明図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合

単位 mm



軒部詳細図

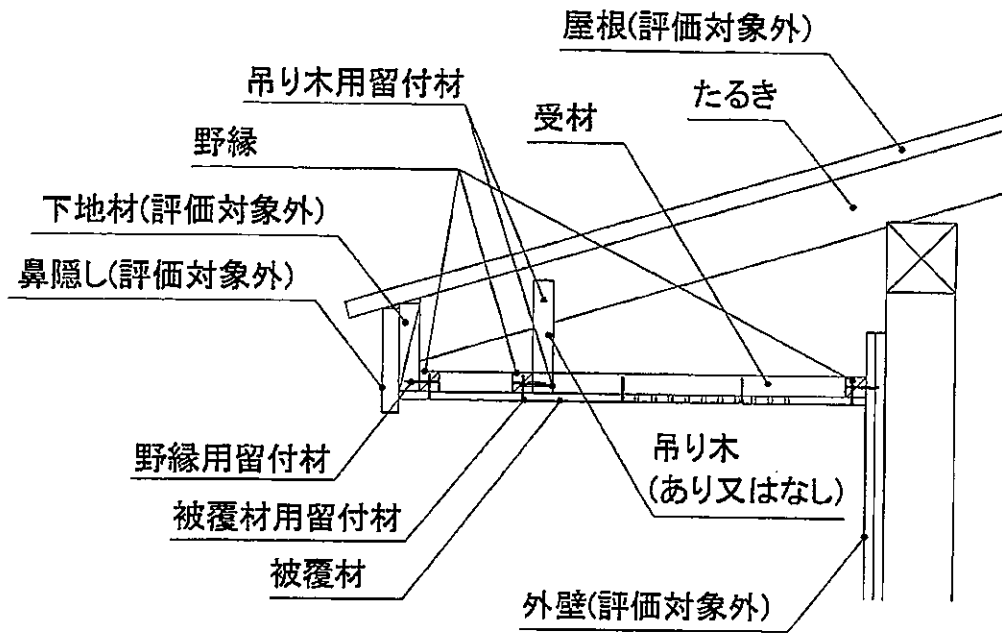


被覆材平面図

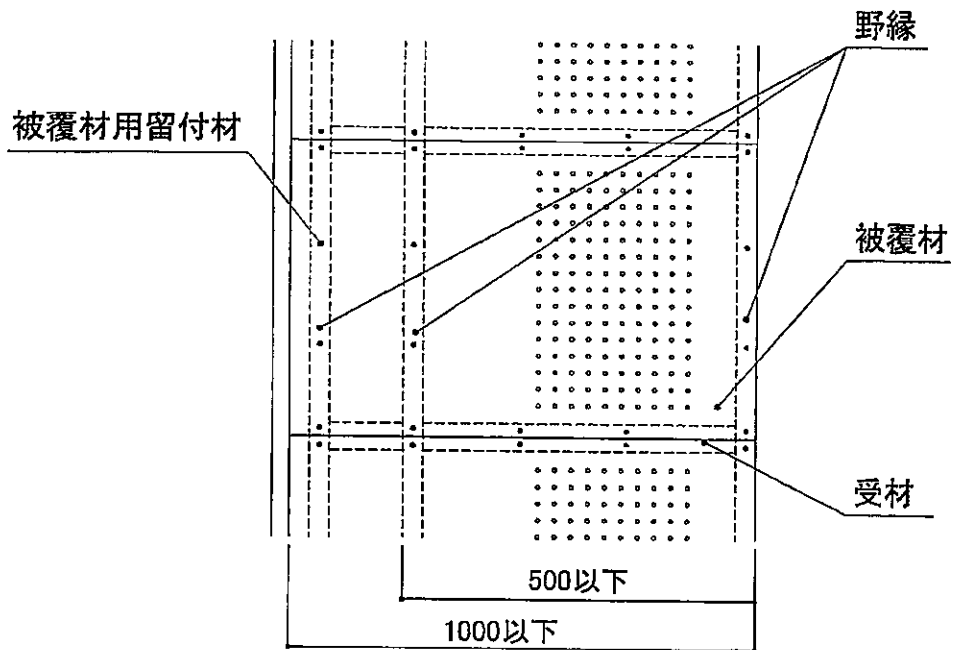
図3 構造説明図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500~1000mm以下の場合

単位 mm

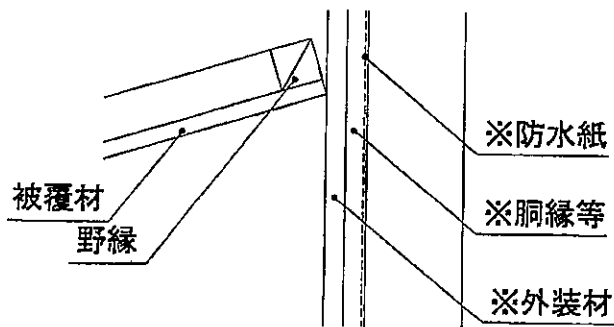


軒部詳細図

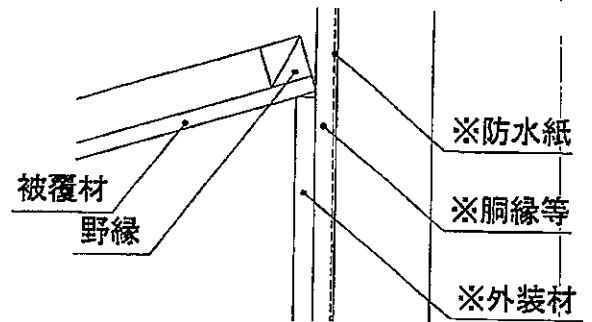


被覆材平面図

図4 構造説明図

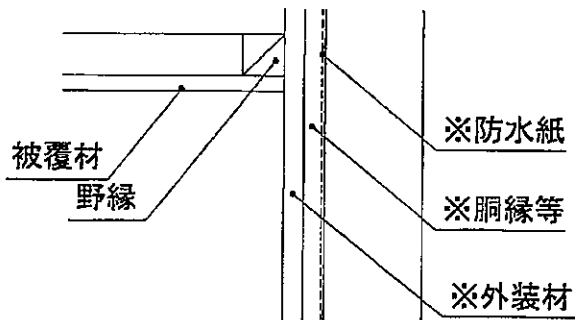


①被覆材勾配、外壁材勝ちの場合

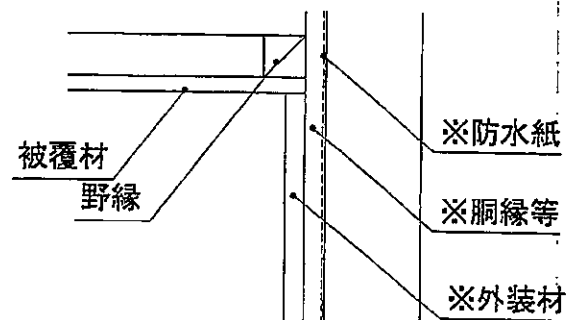


②被覆材勾配、被覆材勝ちの場合

※: 評価対象外



③被覆材水平、外壁材勝ちの場合

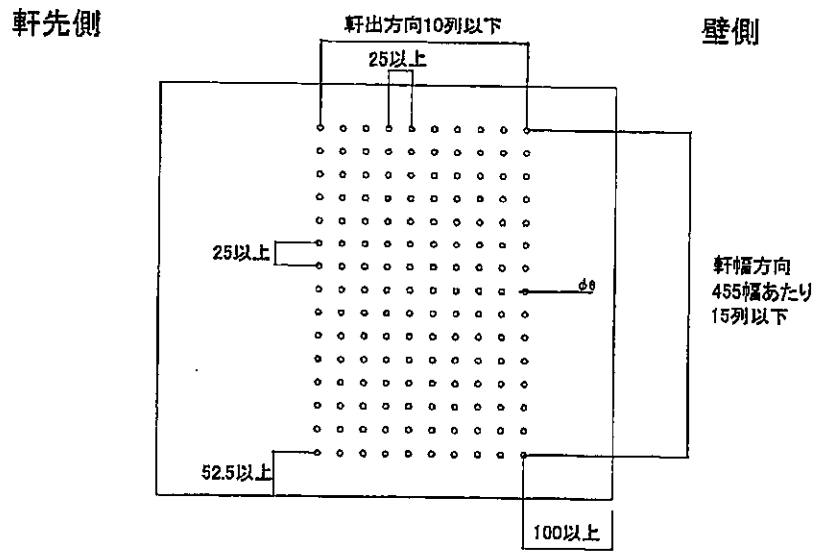


④被覆材水平、被覆材勝ちの場合

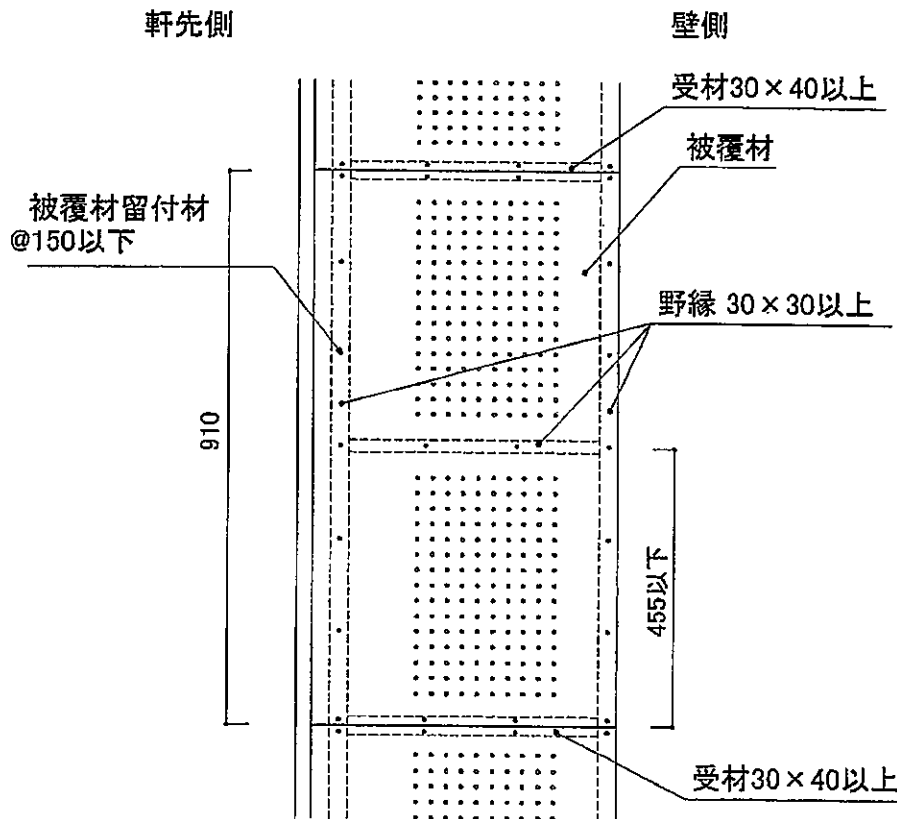
軒元の納まり図

図5 構造説明図

単位 mm



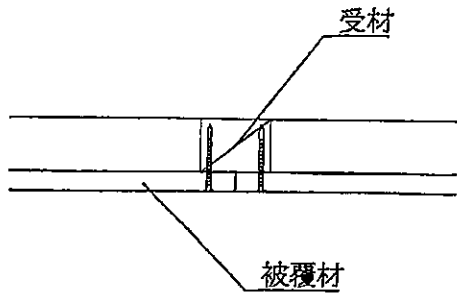
被覆材の孔寸法・位置



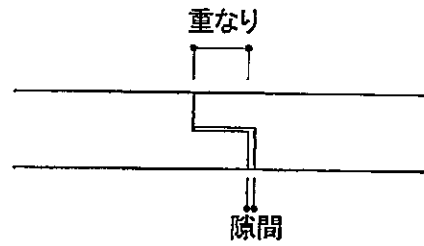
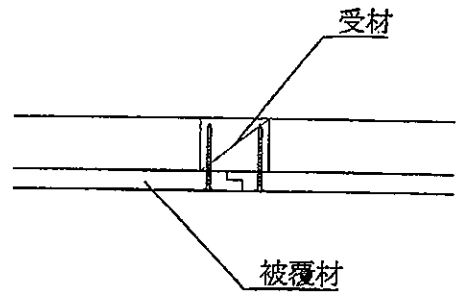
被覆材が455幅以上の場合の留付例:910幅製品の場合

図6 構造説明図

①突付け目地

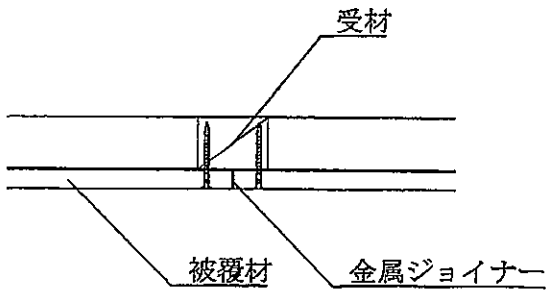


②本実・合いじゃくり目地

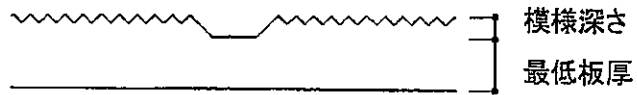


合いじゃくり形状

③金属ジョイナー目地



被覆材の目地処理(目地部材)



被覆材断面形状

図7 構造説明図

6. 施工方法：

施工図を図8～図11に示す。

施工方法は以下の手順で行う。

(1) たるきの取付け

屋根材にたるきを取付け、たるきに下地材を取付ける。

(2) 野縁の取付け

1) 軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合は、野縁を軒の出方向及び軒の幅方向に配置し、取付間隔が500mm以下となるよう、野縁固定用留付材を用いて下地材、たるきを取付ける。

2) 軒の出が500mm以上の場合は、必要に応じて吊り木を設け、1)と同様の方法で取付ける。

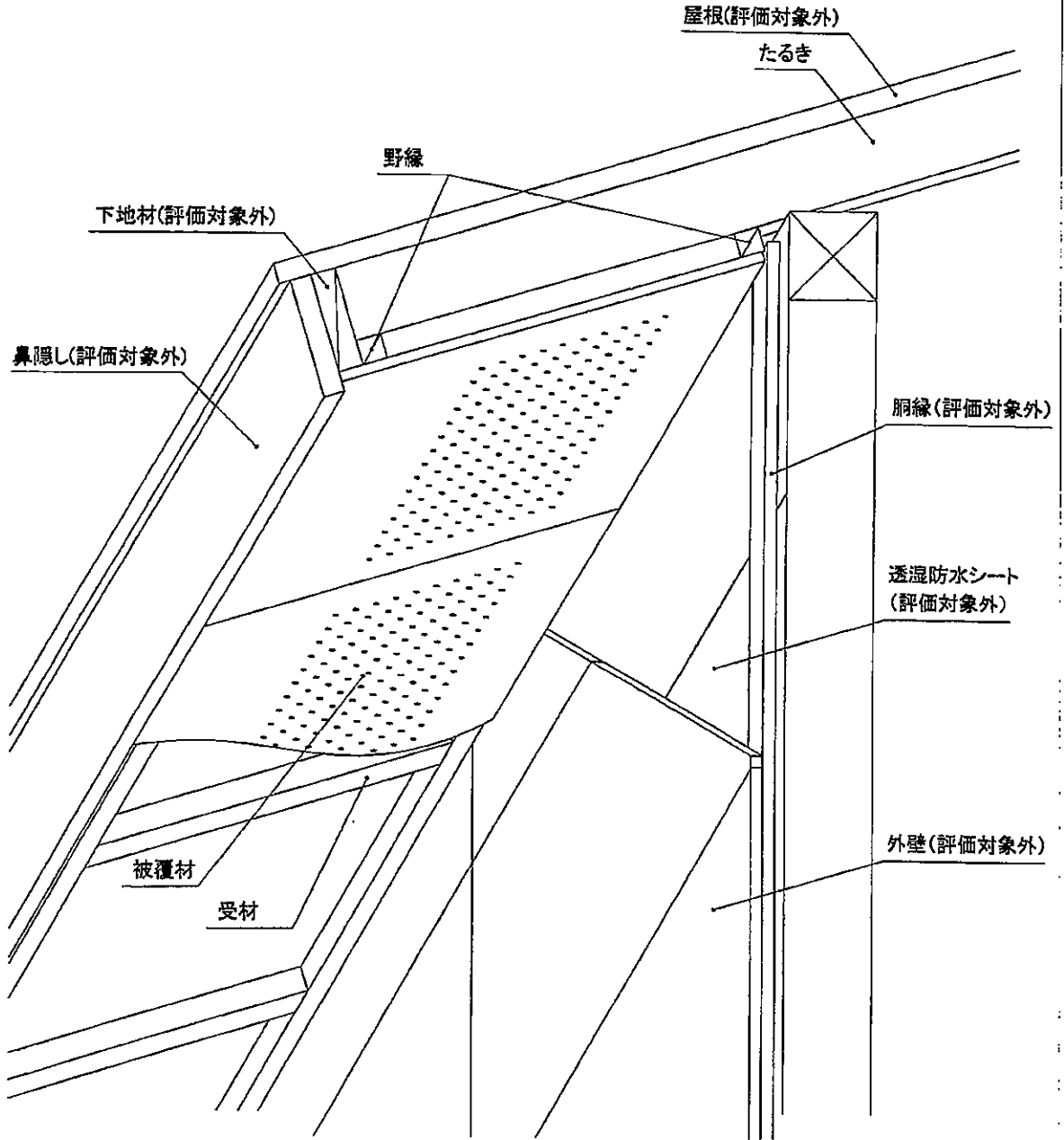
(3) 被覆材の取付け

1) 被覆材は、被覆材固定用留付材を用いて野縁及び受材を取付ける。

2) 目地仕様は、突付け、金属ジョイナー又は本実・合いじゃくりとし、合いじゃくり部の目透かし幅は3mm以下とし、重ね代は9mm以上とする。

3) 被覆材と外装材は壁勝ち又は軒勝ちとし、必要に応じて金属製小口見切り又はシーリング材等でおさめる。

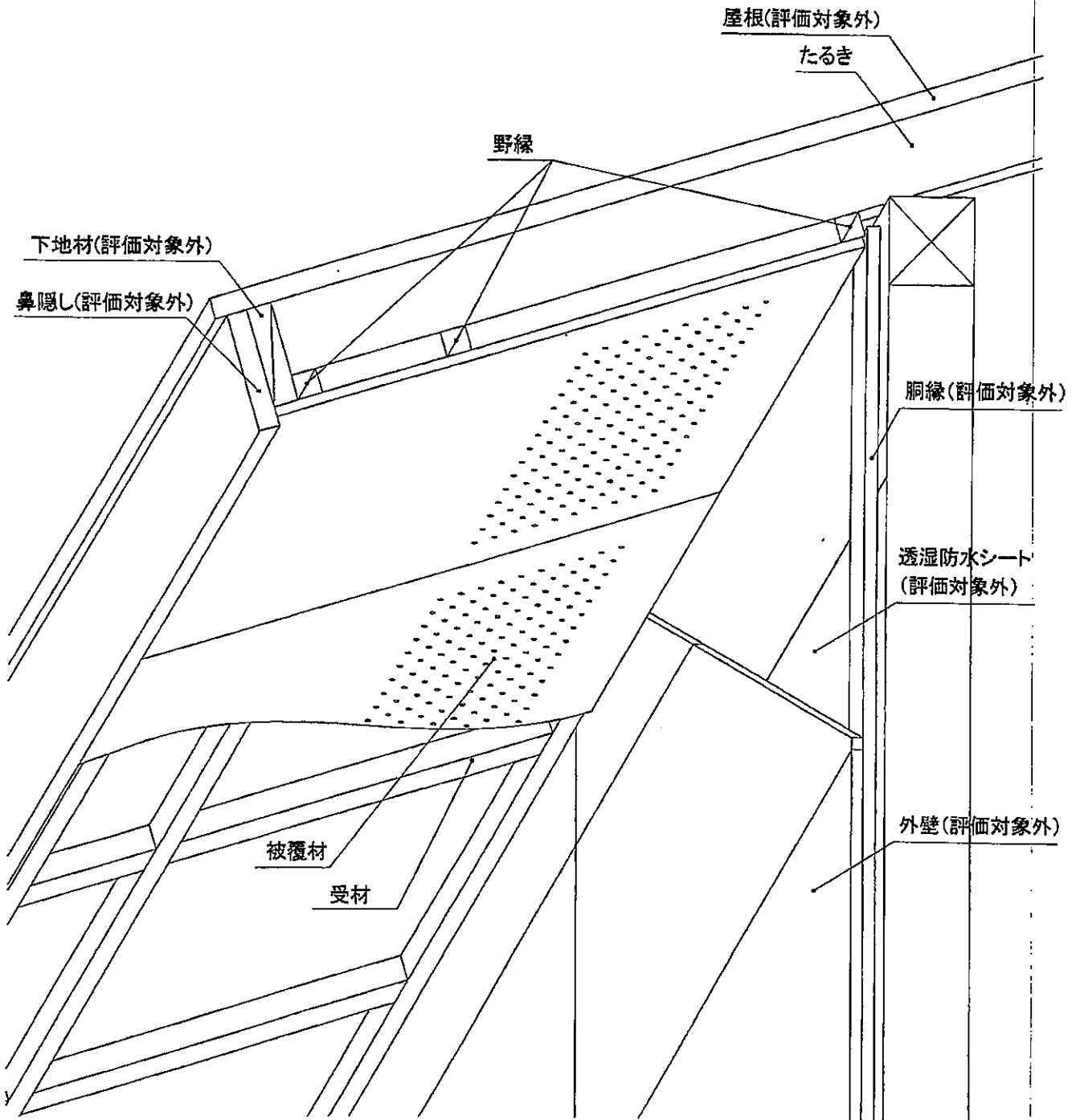
被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合



透視図

図8 施工図

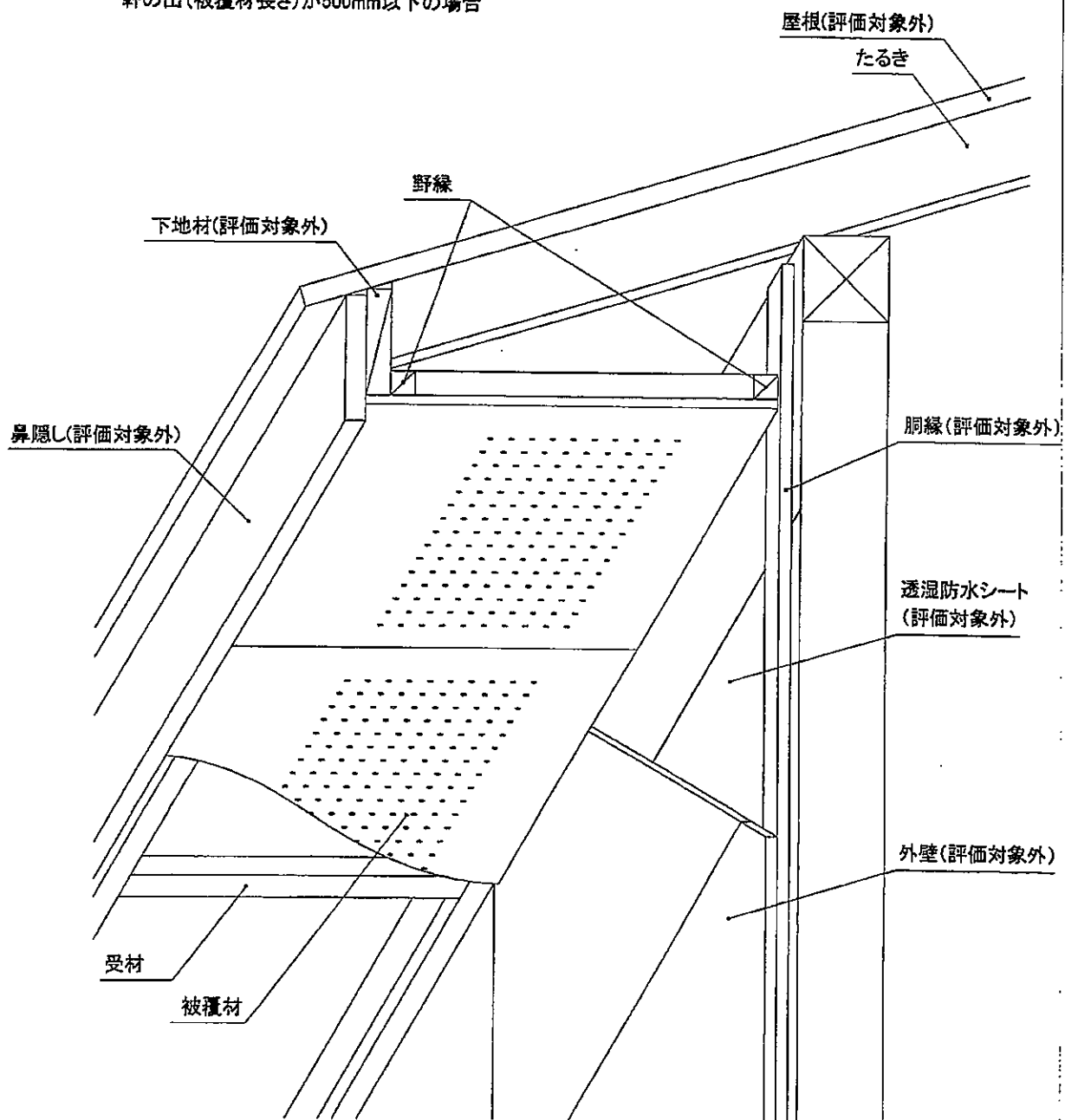
被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500~1000mm以下の場合



透視図

図9 施工図

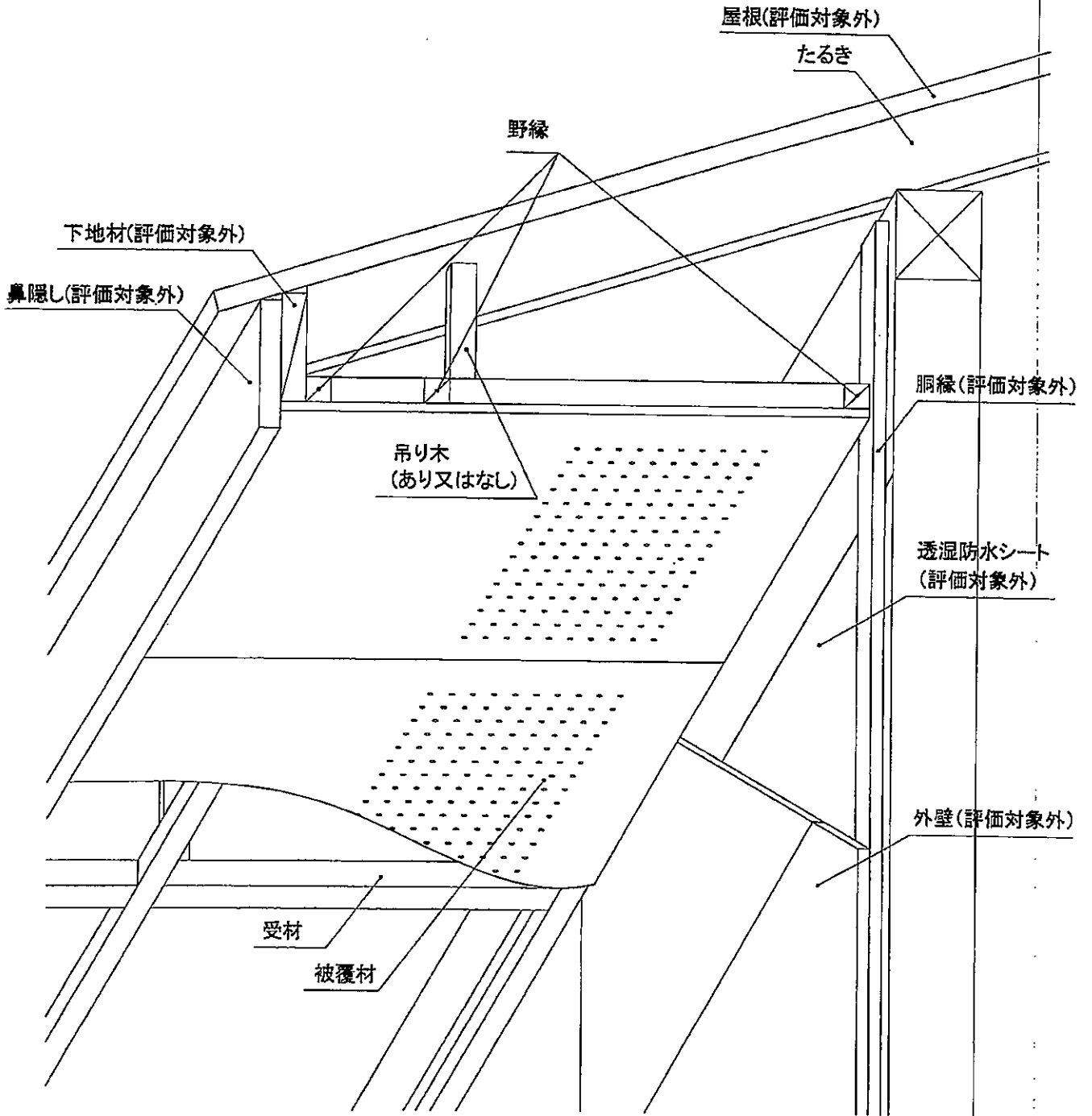
被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合



透視図

図10 施工図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500~1000mm以下の場合



透視図

図11 施工図